

タイムラインを用いた防災対策の現状と課題

野本遥伽

本研究では、住んでいる地域でどのような災害リスクがあるのか、現在どのような防災対策が行われているのかを知り、今後の防災対策に生かしていくため、文献調査とヒアリング調査を行った。

ヒアリング調査では舟渡地区で作成されたコミュニティタイムラインを取り上げ、ヒアリング調査を通して課題や教訓を見出し、今後の防災対策に必要な方向性を検討する。

第1章では、これまでの防災対策やそれらの活用事例についてまとめ、タイムラインの概要について整理した。

第2章では板橋区において行われている防災対策について、住民はどのような方法で、どのような内容の情報を得ることができるのかを明らかにするため文献調査を行った。板橋区でどのような防災対策が行われているか調査した結果、コミュニティタイムラインのほかにも、防災マップ・各種ハザードマップ、地区別防災対策マニュアル・防災ガイドブック・防災マップ、いたばし防災+プロジェクト、舟渡地区における水害時の避難ルールブックなどの対策を行っていることがわかった。

第3章では舟渡地区で作成されたコミュニティタイムラインを取り上げ、ヒアリング調査を通して課題や教訓を見出し、今後の防災対策に必要な方向性を検討することを目的に板橋区職員の方にヒアリング調査を行った。その結果、コミュニティタイムラインの作成は町会主体で行われたこと、住民の意識改革を行うことが困難であったこと、受け身ではなく住民が自ら行動を起こすことが求められるとわかった。

第4章では2つの調査から考察を行った。文献調査では現在行われている防災対策について、情報を自ら得ることの必要性について考察した。ヒアリング調査では住民がこれまで持っていた固定観念や行政への行き過ぎた期待を改め、住民が主体となって行動を起こす必要について考察した。また、日常生活の中に防災対策を根付かせていく必要性について言及した。

最後に第5章では本研究で得られた成果をまとめた。